

《沖縄協同病院の理念》

- 患者様に信頼され、質の高い安全・安心な医療をめざします。
- 人権を尊重し、納得のいく説明と同意、情報開示を提供します。
- 地域と連携し、総合的な医療・福祉・介護の提供に努めます。



沖縄協同病院・病院広報委員会

那覇市古波蔵4丁目10番55号

TEL.(098)853-1200

FAX.(098)853-1212

http://oki-kyo.jp

発行責任者 仲程正哲

沖縄県医師会医学賞



研修医 永村 良二

はいさい!沖縄協同病院研修医2年目の永村良二です。

12月11日に開催された沖縄県医師会において、ポスターセッションの発表をしてまいりました。そこで沖縄県医師会医学賞・研修医部門にて、最優秀賞を受賞することができました。このような大変栄誉ある賞を受賞できたことはとてもうれしく思っています。それもすべて、指導医の先生方のおかげです。本当にありがとうございました。

今回は、脾臓摘出後に肺炎球菌などの細菌に感染し、髄膜炎などの重症感染症にかかった一例について発表しました。今回発表した事例での死亡率は50~75%と高く、発症後数時間~数日で死に至る事もあります。脾臓摘出された方は是非、肺炎球菌ワクチンの接種をすることをお勧めします!

今回の発表は、脾臓摘出後に肺炎球菌などの細菌に感染し、髄膜炎などの重症感染症にかかった一例について発表しました。今回発表した事例での死亡率は50~75%と高く、発症後数時間~数日で死に至る事もあります。脾臓摘出された方は是非、肺炎球菌ワクチンの接種をすることをお勧めします!



琉球新報 (2011.12.30)

指導医からのお祝いのメッセージ

永村先生、研修医最優秀賞受賞 おめでとう!

2年目研修医の永村先生が、今年初めて設けられた沖縄県医師会医学賞の研修医部門最優秀賞を受賞しました。

脾臓を摘出して何年もたって細菌性髄膜炎を発症した「脾臓摘出後重症感染症の一例」を報告しました。日常の臨床の中から貴重な症例を抽出し、教訓を引き出し、課題を明確にし、堂々と発表しました。一例一例の症例を大切に、深く掘り下げることの大切さをあらためて示してくれました。病院にとっても大きな名誉であり、病院全体の励みになっています。

自分達の医療に自信をもちつつ、謙虚さを忘れずに日常の医療活動に邁進していきたいと気持ちを新たにしました。

研修委員長 高原安彦

当院の取り組み紹介

地域救急救命士の病院実習



救急救命士は、救急の現場や救急車内において、心肺停止患者の蘇生処置をはじめ、傷病者の救急救命処置を行っており、皆様の住まわれる地域の救急活動において重要な役割を担っております。しかし、その技術の維持・向上には、病院等において指導医の指導・監督の下に定期的な実習が必要です。

当院におきましても、地域の救急活動の維持・向上に少しでもお役に立ちたいと考え、県内の消防署に配属されている救急救命士の実習を行っています。

救急救命士の病院実習についてご理解とご協力をお願い申し上げます。

救急センター 名護宏泰

12月5日より救急救命士の特定行為である気管挿管の手技を学ぶため沖縄協同病院で実習を行っています。

全身麻酔により手術を受けられる患者様のご協力を頂きながら先生方、看護師等のご指導のもと気管挿管の技術をしっかりと学び、現場で生かしていければと思います。又、患者様、ご家族の理解を得ることの難しさを実感しながらの実習ではありますが、実習終了後は、地域住民に気管挿管の手技が生かせる様に実習期間中、頑張っておりますので、これからもご指導宜しく申し上げます。

島尻消防 清掃組合消防本部 救急救命士 池間尚弘

病院の活動状況 <12月度>

- ・外来一日平均患者数: 630人 (前年同月比+10人)
- ・入院一日平均患者数: 270人 (前年同月比0人)
- ・組合員利用率: 56.0% (前月比+2.5%)



小児科 尾辻健太

食物アレルギー④

ひびき 70

小児科



食物アレルギーの検査

みなさん、こんにちは。今月は食物アレルギーの検査について書いてみます。食物アレルギーを疑った時、病院では採血されることが多いと思います。採血では、血液の中のそれぞれの食物に対するIgE(あいじーいー)という抗体を測ることが多いのです。この値が高いと「食物アレルギーがあります」と説明されることがあるかもしれません。しかし、注意してほしいのは、この値はあくまで参考、という点です。「IgE」が高くて普通にも食べられる人もいますし、値が低くても食べて症状が出る人もいます。なので、本当に食物アレルギーがあるかどうかは、血液検査だけでは分かりません。逆に言うと、食べて症状が出るのが明らかなら、血液検査はいらぬ場合もあるのです。大人に多いエビ・カニアレルギーは血液検査があまりあてにならないので、食べて症状が出るようなら食事からエビを避けていけばいいと思います。

以前、こどもにも多い食物アレルギーは卵、牛乳、小麦の順番、と書きました。これらのIgEは高いほど症状が出る可能性が高く、低くても症状が出る可能性ががあります。「じゃあどうやって判断したらいいの?」と疑問に思うかもしれません。結局、食べてみないと分からないので食べてみましょう、ということになります。どこで食べてみるかですが、重い症状の出る可能性がある人が自宅で食べてみるのはリスクがあります。自宅でアナフィラキシー(ひどいアレルギー症状)が起こった時、治療が遅れば命に係わる場合があります。そのため、病院で食べてみる「食物負荷試験」が安全、安心です。当院ではより安全性を重視して入院での負荷試験を行っています。

小児科 尾辻健太

病院給食

季節の料理について

患者様にとっては、毎日の食事は楽しみの一つであり、当院では、入院中も季節を感じられるように、毎月行事食をお出ししています。

正月料理、ムーチャー、ふちゃぎ、あまがし等旧暦の沖縄の行事食は、高齢者にとっても、なつかしく喜ばれています。

また、クリスマスには調理師がサンタクロースに扮して患者様1人1人にケーキとコーヒーのワゴンサービスを行っており、

毎年好評の恒例行事の一つとなっています。

行事食に限らず、栄養管理室では日頃から入院患者様に満足していただける食事を提供できるように努力していますので今後ともよろしくをお願いします。

栄養管理室 平原貴久乃



節分の豆と恵方巻き



虹の箱とは患者さまの声を医療活動に反映させていくための投書箱です。

ご意見・ご要望

駐車場の横断歩道の近くにもう1つライトをつけて明るくして貰いたい、入ってくる車は歩行者（横断者）がいるのにスピードを落とさずくるのでこわいです。

ご返事

大変ご不便をおかけします。構内の横断歩道を照らすライトについて院内で確認し検討しました。ご指摘の通り、横断歩道付近は明るさが足りないようでしたので、照明の種類をスポット式のライトへ変更しました。また、複数で照らせるよう現在準備中です。

安全面へのご指摘、大変ありがとうございました。

施設課長 上原信行



千葉県からのお手紙

はるばる千葉県より「はいさい」へのお便りがありました、割愛して紹介させていただきます。

沖縄協同病院・病院広報委員会様

突然のお便り失礼いたします。2011年12月1日発行の二面に掲載されている『おきなわの自然⑨「がじゅまる①」』に、書かれている文章ですが、大変懐かしく読ませていただきました。このお便りは、12月11～12日にかけて開催された「(全日本民医連共同組織)全国連絡会議」のときに頂いた「はいさい」に記載されたものです。

懐かしいと申しますのは、「(私は)生まれも育ちも台湾なのです」。

(割愛)

近くの公園に沢山の「がじゅまる」の木があり、いつも木に登っては母に叱られたことを思い出しました。幼い頃の思い出です。「がじゅまる」は内地では「百日紅」に似た木だとおもいます。金城さんが言われているように、よく「しなる木」です。鬼ごっこの時、「木の股」に足が挟まれ抜けなくなり大変痛い思いをし、それ以来登らなくなりました。とてもお転婆さんでした。

(割愛)

沖縄は千葉より暖かいでしょうが、お体に気を付けてください。

千葉県在住 女性

◎「はいさい」についてご意見・ご要望をお寄せ下さい。

原國さんの編集後記



はいさいは、今月125号となり、再刊されていつの間にか10年が経ちました。当初は白黒の手作りでしたが、念願のカラー印刷になり、現在は約7,500部が院内をはじめ地域に配布されています。私は再刊から関わってきた一人ですが、今月定年退職になりました。今ははいさいを見ると、この間の病院の動きとその時々的情勢がわかり、私にとっても、1号1号が思い出につながります。できればもっと患者様や組合員さんの声が欲しいと思っています。これからもよろしくお祈りします。そして長い間ありがとうございました。

総合案内 原國まゆみ

第7回

漫湖さくらまつり

とき：2012年2月11日(土)～12日(日)

ところ：漫湖公園古波蔵側中央噴水広場

主催：漫湖さくらまつり実行委員会

沖縄協同病院も実行委員として参加。

カラオケ大会、エイサー、舞踊など楽しい企画満載！お誘い合せの上、ぜひ起こして下さい。

おきなわの自然⑨

タツノオトシゴ

今年「辰年」である。十二支の中で辰(龍)だけが、架空の動物である。そのため、代わりにタツノオトシゴがもてはやされる。タツノオトシゴは見るからに龍の姿をしていて、大きい種類でも30cmにし

かならないのでオトシゴの名の通りである。しかし、顔から首にかけては馬にそっくりであるため、英名をシーホース、日本でも別名を海馬(ウミウマ)という。海馬と言えば、人間の体にもある。大脳の記憶中枢を司る海馬(カイヤ)である。これは、その場所がタツノオトシゴの形に似ているために名付けられたという。

10年以上も前、瀬長ビーチの腰位の深さの所にトウアカクマノミという珍しいクマノミ一家が住んでいて、よくその写真を撮りに行った。その時に、その周囲の海草に尻尾を巻きつけて波に身を委ねている数匹のタツノオトシゴをよく見かけた。最初に発見した時は「こんな所だ」と思っぴっくりしたものである。

タツノオトシゴがよく知られているのは、オスが子どもを産んで育てることである。正確にはメスがオスの育児嚢に産卵し、そこで受精して稚魚(タツノオトシゴは魚類)になるまでオスが育児嚢で育てるのである。

台湾や中国の漢方薬店では干物になったタツノオトシゴをよく見かける。滋養強壮等に効果があるようだが、そのために乱獲されて、絶滅危惧種に指定されている種もある。

さて、政府は普天問題で「誠心誠意」踏まれても蹴られても県民と向き合っていくと言いつつながら、「評価書」を郵送で、しかも朝の4時という時間に県庁に搬入した。「そこまで墮ちているのか」と情けなくなつた。このことは県民の「海馬」にずっと刻み込まれることだろう。そして、県民は「ネバー、ネバー、ネバー、ギブアップ」だと言葉を返したい。

とよみ生協病院 事務課長 金城稲子

